

味覚授業を実践する

しまむら  
島村みつはる  
光治さん(39)

レモン汁を飲んでも、口の中には甘さが一。舌にある味蕾を刺激し、酸味を甘く感じさせるアフリカ原産の植物「ミラクルフルーツ」の力だ。そんな不思議な体験をしてもらおうと、ミラクルフルーツの赤い実の成分を仕込んだ錠剤持参で学校や公民館などを訪問。これまでに計4万2000人に味覚授業を行った。

秋田県生まれで植物好きが高じて、中学時代は家で食虫植物を育てた。高専1年のときミラクルフルーツを本で知

り、東京まで出向いて苗などを入手、温室で生育した。

名古屋の企業に就職し、愛知県内に暮らすようになった2001年、園芸仲間の誘いで同県知多市でミラクルフルーツを紹介。好評を呼んで授業の依頼が相次ぎ、休日を利用して全国へ。日本福祉大では、客員研究所員として味覚と植物の研究を進めている。

現代人の食生活の変化で、味覚障害者が増えているという。授業では、甘みを感じさせなくするインド原産の植物

この人



「ギムネマ」の葉も持ち込み、チョコレートを口に入れても何も感じない体験も。

「味覚のありがたさや、面白さを広めたい」。不思議な植物を通じて食育の大切さを訴える。  
(安田功)